

リーディングDXスクール事業【情活能力育成】

小川村立小川小学校

【児童生徒が自立的に学ぶための情報活用能力の具体的な育成実践の例】

全校で取り組むスイスイPC（毎週1回、朝の活動20分間に行うタブレットでの学習）

【スイスイPCの時間に取り組んだこと】

- 1年 コグトレ、マグナ、eライブラリ
- 2年 コグトレ、eライブラリ（算数、国語）、マグナ
- 3年 タイピング練習（タイピングコロシウム、すし打、POPタイピング）
- 4年 タイピング練習（すし打、タイピングコロシウム）、eライブラリ（算数）
- 5年 タイピング練習（タイピングコロシウム）、Canva（国語「方言クイズ」の作成）
Googleスライド（国語「伝記を読んでまとめよう」）
- 6年 タイピング練習、eライブラリ（国語、算数の復習）、
新聞作り（Canva、Googleスライド）

【スイスイPCの時間の児童の様子】

- ・楽しみながら集中して意欲的に取り組んだ。
- ・目標を決めて課題に取り組むことができた。
- ・授業でできなかった課題を補うことができた。
- ・内容を自分で決めて取り組み、分からない問題は質問したり、教えあったりしていた。



どのような力を育成することを目指して取り組んだか

- ・コンピュータの起動や終了、タイピングなどの基本操作を自分でスムーズにすることができるようにすること。
- ・ローマ字入力ができるようになり、授業でCanvaやスライド等のICTを使うことができる。
- ・自分で課題を持ち、目標を決めて、自分のペースで学習に取り組むことができる。

リーディングDXスクール事業【情活能力育成】

小川村立小川小学校

【児童生徒が自立的に学ぶための情報活用能力の具体的な育成実践の例】

総合の学習と絡めた 受け手の状況を考えた情報の発信の仕方を考える

最高学年として、来年の小川小学校の先頭に立つ5年生に向けて、何か伝えられることはないかな



対象は5年生

どんな風にまとめているの？



修学旅行の紹介じゃだめなんだよね
5年生に大切なことを伝えるには
どう関連づけてスライドを作ろうかな

相手を意識し、
わかりやすく表現しよう
とする姿



興味をもってもらうために、
クイズを混ぜてみたよ

どうしてこんな力がついたのでか？

- 普段から授業を一緒に行っており、相手のことをよく知っていること
- 自分が5年生だった時のことを思い出し、経験と結びつけていること
- 黒板に常に「何のためにスライドを作っているのか」「目的は何か」と立ち返る基準が板書されていたこと

どのような力を育成することを目指して取り組んだか

児童会の引き継ぎを前に、総合の学習の時間を使って取り組んだ事例。受け手は誰なのか、どのような状況なのか、どうして自分たちはこの活動を行っているのかを明確にした上でICTを利用することで、自分たちが伝えたいことを伝えるには、手元にある情報をどのように組み合わせるかを表現したらよいかを考える力を育成することを目指した。その結果、相手を意識し、わかりやすく表現しようとする力がついてきた。

【テーマ】 学校間交流

本校は山間地にある近隣の4つの小学校と共同学習やレクリエーションを通して、交流を行っている。本年度は、対面での交流の前にオンラインで交流する機会を設け、他校の児童との関係性作りを図った。

～児童の様子～

① 4月オンライン交流

② 11月オンライン交流を経ての対面での交流



見慣れている友達が多くて安心だな



[子ども達の感想]

- ・オンラインで交流していたから、知っている顔の人がいて話しかけやすかった。
- ・他の学校の人たちから話しかけられて嬉しかった。

【テーマ】 学校間交流



取組のねらい・実施にあたり工夫した点 等

【ねらい】

西山4校の児童が共同学習することを通して、社会性を広げ、互いの親交を深める。

【実施にあたり工夫した点】

- ・Zoomを通して交流を行った。オンライン上の相手に情報を伝えるためには、ゆっくりはっきり話すようにすると伝わりやすいと事前に説明した。
- ・オンラインの交流の後、対面の交流まで1ヶ月程間があくので、それぞれの学校の子どもたちについて名前や特技をメモするワークシートを用意し、当日持参した学年もあった。

【子どもたちの様子】

普段、人数の少ない中で生活している子どもたちにとっては、大人数の中で過ごす貴重な機会である。オンラインの交流会をすることで、自分のことを知ってもらっていたり、相手のことを知っていたりする状態で交、安心感を持って交流会に臨めた。

【テーマ】 児童会での活用

児童会主催の子どもまつりで「30秒記憶ゲーム」を行うために、たくさんの画像や写真を集めたいと思った子どもたち。でも、児童会の時間は限られています。そこで...



委員長

こういう画像をいっぱい集めて、共有したスライドに入れてほしいんだ
高学年用と低学年用に分かれているから、両方考えてほしい

情報通信ネットワークを
協力して使おうとする姿が
自然とみられた



臨時委員会を開くことなく、時間を有効に使って楽しい出し物を作ることができた

取組のねらい・実施にあたり工夫した点 等

小川小学校は、子どもの人数が少なく、行事が多いため、一学期はとても多忙であった。そんな中で子どもたちと相談し、自分たちの時間を作ることで、子どもまつりを盛り上げたいという願いを実現するにはどうしたらよいか考える中でICT機器を使った準備を行っていくことになった。大切なことは児童会の時間で確認していったため、共通認識の中で準備ができた

【テーマ】 個別事情により、特別教室で学習している子どもと教室とをつなぐ取り組み

【取組内容】 教室に入れない児童とのオンライン授業

授業でやることは、クラスルームのストリームに提示。

- ・校内どこにいても教室で行っている活動が分かる。
- ・話しかけられたときに答えられるようにミーティングでつなぐ。
- ・クラスルームで課題を配布。チャットで提出。他の子どもの課題も確認しながらできる。リアクションで意思表示をする。

教室で行っている授業をミーティングで一緒に受けることができるため、授業の内容に遅れずに進めることができ

取組のねらい・実施にあたり工夫した点 等

読めば分かるような授業の流れを作って提示している。
 学習場所が違って時間差無く意見を言える。
 文章では無くリアクションをすることで気持ちを表すことができる。
 教室にいなくてもクラスの様子が変わり、安心感につながった。



① 1月7日 7 気持ちがあつなげる家族の時間、生活を変えるチャンス!

1月7日 (最終編集: 14:29)
100点

- 1 宿題の提出 冬休みには家族のお役にたてましたか？
自分がやった仕事をチャットに発表しよう
- 2 7 気持ちがあつなげる家族の時間 P 6 2～6 4 スライド発表続き 次に発表する人が感想を言います
- 3 生活を変えるチャンス! 発表
- 4 教科書 p 7 の生活を変えるチャンス! の時に感想を記入しよう 撮影してチャット
③: 感想～ と書きます。
- 5 次回 8 ミシンにトライ! 手作り楽しい生活 に入ります
作りたい物を考えてきましょう

Login to your Canva account
<https://www.canva.com/assignment>



第7大題材 気持ちがあつなげる...
 Google スライド

リーディングDXスクール事業【情活能力育成】

小川村立小川中学校（長野県）【指定校】

【児童生徒が自立的に学ぶための情報活用能力の具体的な育成実践の例】

「情報の時間」の設定による情報活用能力の育成

【取り組みの概要】

- ・総合の時間の中に、5時間程度 情報の時間 を設定。
- ・各学年で情報の授業担当者を決め、生徒の実態に合わせて [育てたい情報活用能力] を意識した学習を進める。

【意識していること】

情報活用能力を知識として習得するのではなく、実践の中で活用できるように、各学年で学習テーマを決め、活動の中で情報活用能力（スキル）の指導を行う。

R7年度 小川中学校 「育てたい情報活用能力」(学習内容一覧表)

学習内容		1学年	2学年	3学年
【A】 基本的な操作	(1) キーボード入力(60字/分以上)やインターネット等での情報閲覧	○		
	(2) 図表の作成、写真・動画の撮影、録音、画像の取り込み方法など	○	○	
	(3) 図表や文献の引用方法(表記を含む)、情報自体の扱い方など	○		
	(4) 必要な相手に対する聞き取り調査や現地見学と記録作成		○	
	(5) 目的に応じた機器・アプリケーションの選択と操作	○	○	○
	(6) 同期的手法(対話)と非同期的手法(クラウド・紙面)を適切に用いた協働作業		○	○
【B】 問題解決・探究における情報活用	(1) 問題解決や課題を意識した、情報収集や整理・分析し、解決に向けた見通し(計画)を持つことができる	○	○	
	(2) 問題解決のために集めた情報を整理・分析し、自分のことばでまとめ、他者に伝えること	☆	○	
	(3) 他者との関わりや情報共有などの学び合いによって、自己の考えを深めたり、新たな視点を取り入れたりしながら、自らの見方を深めること		☆	○
	(4) 表現方法を相手や目的に合わせて選択し自他の情報を組み合わせて適切に表現する		○	☆
	(5) 自らの情報活用を評価し、改善しようとする		○	○
【C】 情報モラル・セキュリティ	(1) 情報社会での情報の役割(大切さ・危険性)に対する適切な態度	○	○	
	(2) 自他の情報の大切さ・守るための方法を知り、実践する態度	○	○	○
	(3) 相互通信を伴う情報手段(ICT機器の双方向性)に関する知識を持ち、責任を持った活用を身につける		○	
	(4) Webサイトやデータベースの累積的・可変的な情報(非同期性・可変性)に関する知識を持ち、有効かつ責任ある態度で活用する		○	○
	(5) 情報を多面的・多角的に捉えたり、情報を比較して情報の真偽を捉えたりする力(情報の多元性格/真正性)		○	○
	(6) 情報や情報技術をよりよい生活や社会づくりに活かす態度		○	○

実践例：3学年「生成AIについて考えよう」

内容

生成AIについて各自でテーマを決め、情報収集・整理・分析、友達との情報共有や他者参照を行いながら、自分の考えをまとめ、情報発信をすることを通して、今後の生活に活かせるスキルを身に付ける。

学習後の生徒の姿

- * 生徒会活動の場面で
 - ・全校に伝わる発表・情報提示を工夫
 - ・生成AIで発表原稿案の作成や推敲をする。
- * 教科学習の場面で
 - ・情報収集・検索の際にAIの情報を鵜呑みにしないこと、AIの情報元(URL)から真偽を確かめようとする姿。
 - ・複数の情報を比較する姿。



どのような力を育成することを目指して取り組んだか

- ・教員の異動がある中で、生徒・教員が持続的に端末活用ができることを目指す。
- ・情報の時間で情報活用能力の基礎事項（基礎的な操作、問題解決・探究における情報活用、情報モラル・セキュリティなど）を実践の中で学び、学習したことを活かしながら、学校生活のさまざまな場面で端末活用ができることを目指す。

リーディングDXスクール事業【情活能力育成】

小川村立小川中学校「(長野県)【指定校】

【児童生徒が自立的に学ぶための情報活用能力の具体的な育成実践の例】
各教科指導の中で育成する情報活用能力

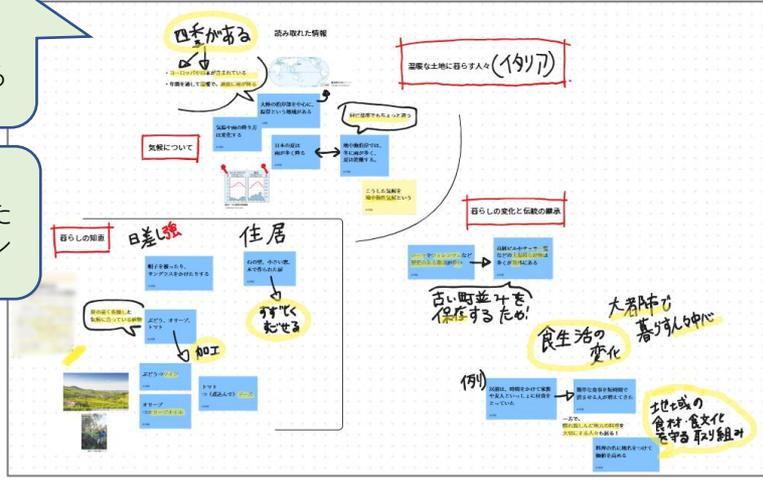
番号	発表用URL (貼付)	今日の追究をふり返って	100~200	数値で肯定 か否定か表 してみよう
1		今日は、AIについてわからない人に説明するためのスライドを作るための情報を集めた。各AIでどのような違いがあるのか、同じ質問を各AIに質問させてどのような返答の違いがあるのかを調べてよかった。次の授業では、わかりやすくグラフなどにまとめていきたい。	126	8
2		聞いたことをそのまま書いてもわかりにくいので発表するときは、自分で手を加えないと言うことがわかった。あまり使ったことがなくてどうように聞けば良いのかわからなかった。次は、見やすいように表や字に色をつけ見やすいようにしたいと思った。	128	7
3		生成AIのメリット・デメリットについて調べて表にしながらまとめられた良かった。ただ、字が多くて見づらかったりするから時の量や色使いを考えて見やすくまとめた。友達がまとめているものを見てもらって初めてAIと生成AIの違いについて知れた。生成AIは結構使ったりするけど、知らないことも多いと思うから、たくさん調べてまとめた。	165	9

【学習の振り返り (例)】

- ・ スプレッドシートやドキュメント等を用いて共同編集で行う。
- ・ 生徒各自のスライド (URL) を添付
- ・ 文字数カウントを行い打った文字を視覚化 (タイピング)
- ・ 教師のコメント (赤字) : 次時への見通しやアドバイスなど

【各教科の学習活動で】
(例) 各自の予想を元に、
情報収集・整理・分析する
活動 (社会科)

【各教科の学習活動で】
(例) 学習内容を活用した
動画・プレゼンテーション
の作成 (英語科)



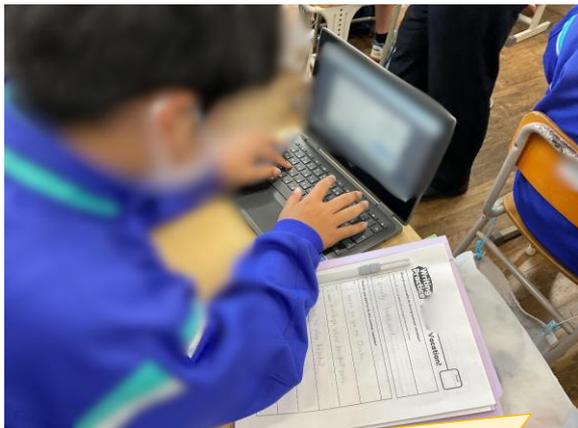
☆各教科で端末を効果的に使用した授業を行うことで、情報活用に慣れ、学校生活のさまざまな場面で得たスキルを活用・応用することができるようになる。

どのような力を育成することを目指して取り組んだか

- ・ 日常の授業の中で、端末を効果的に活用することで、情報活用能力を実践の中で身につける。
- ・ ICT端末・クラウドを活用した情報の提示・共有・情報収集を行える環境を作ること、個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実を図る。

リーディングDXスクール事業【GIGA×独自テーマ】

小川村立小川中学校（長野県）【指定校】

【オンラインを活用した地域人材や外部専門家の参画を得た授業】
英語学習・国際交流プラットフォームを用いた英語学習

【オンライン国際交流】

海外の中学生とオンラインで交流を行う。これまで学習した英語を活用し、自分のおすすめの写真やイラストなどを使って自己紹介をしあう。



【学習した文法、スペリング、発音の正確さをAIが判定】

教科書の本文や自作の英文をプラットフォームに入力。

ヘッドセットを使用し、個々に文章を読み上げ、AIに発音の正確さやスペリングの判定してもらう。繰り返し、練習・判定に取り組む姿が見られる。

☆ 授業後のアンケートでは、「もっとAIの判定をあげたいという気持ちで練習ができるから、英語の勉強をもっと頑張ろうと思った。」
「実際に外国の人と話すことがないから、楽しかった。もっと英語を上達させたいと思った。」など、英語学習・国際交流プラットフォームを用いたことで、英語学習に対する意欲の向上や海外への関心が高まったことがうかがえる。

取組のねらい・実施にあたり工夫した点 等

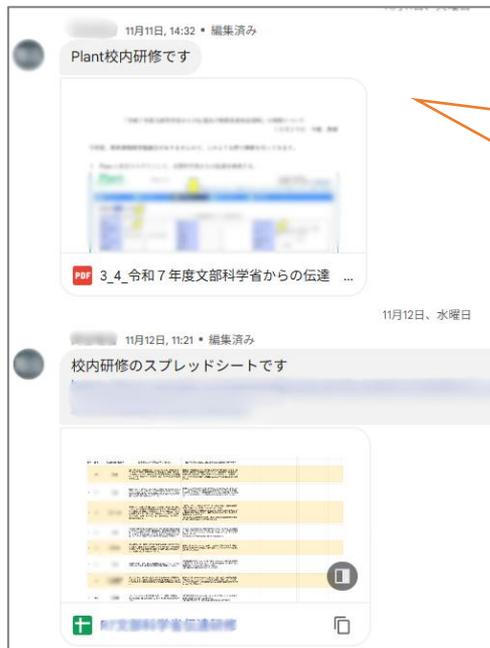
【取り組みのねらい】

- ・学習した文法、スペリング、発音の正確さをAIに判定してもらうことで、正確な英語を自信をもって話すことができるようになる。
- ・授業で学習した英語を、実際に海外の生徒と交流をする中で実践的に活用し、海外とのつながりや海外の文化・生活に対する関心を高めることをめざす。

【工夫した点】

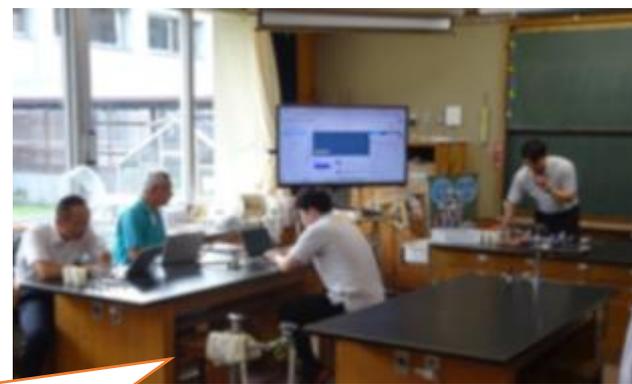
- ・グループを1～3学年の縦割りにすることで、1年生や英語を苦手と感じている生徒にとっても相手の英語が理解できるように工夫した。

【校務DX】 クラウド環境を活用した職員研修



例) 対話を重視した校内研修

1. 校内チャットを活用して研修内容・研修方法の周知。入力シートの共有。
2. 各自で期日までに動画視聴→共有シートへ入力
3. 共有シートに入力したことを中心に話し合う時間の確保



例) 模擬授業で生徒が活用しているツール、授業形態を体験

取組のねらい・実施にあたり工夫した点 等

【取り組みのねらい】

- ・伝達や指導を視聴することを中心とした研修時間だけでなく、学んだこと、今後にかきたいことなどの視点に沿って職員の対話や意見交換、体験による研修時間を増やす。
- ・授業で活用しているツールを職員が使い、子どもの立場、視線になってクラウド環境を体験する機会を増やす。

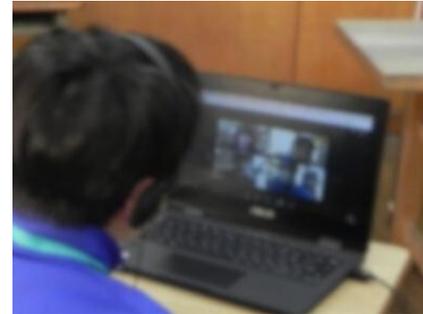
【工夫した点】

- ・校内Chatを活用し、研修の周知・連絡、研修記録の入力シートの共有。
- ・各自好きなタイミングで動画視聴ができる。→ 時間的拘束の削減
- ・個別に動画視聴から得たことを研修会前に入力しておくことで、研修会（対話）で共有する際に、他者の考えを理解しやすい。また、グループでの対話の場合は他グループの職員の気づき・意見も共有することができる。

【オンライン合同授業】 小規模校同士のオンライン合同授業

【実施内容(美術・鑑賞)】

- * 近隣中学校とオンラインで合同授業を行う。
- * 美術科の鑑賞の授業(両校で1つの題材について鑑賞)を行う。
- * 全体共有の後、グループごとに題材について鑑賞を深める。



【グループ活動用シート】

＜話し合いの進め方＞
 ＊互いの考え等を肯定しません。
 ＊互いの勘案や考えを分類・比較し整理したり対比したりして、(→後の振り返り)にまとめられるよう整理しましょう。

①私の最初の考え(青色フセン)
 ②最初の自分の考え：青色フセン
 ③新たな考え・気づき・感想等：白色フセン
 ④友の考えを分類したり、つながりを線や矢印で繋いだり
 ⑤他の見解：黄色フセン

まとめ
 ・大人気でテーブルを囲んで食べているような場面なのかも！あまり洋風な感じはしない。主食が多い。なんか日本の年末っぽい感じがちよっとした。
 ・クリスマスとか誕生日のようにお祝いではなさそう
 ・食べ物や和食や、中華が多い
 ・家族で外食してきた感じ
 ・チェーン店ではなく、道の駅っぽい

【全体活動用スプレッドシート】

グループ	名前	活動1 下(1)のリンクから活動シートに入るう！	【振り返り】 ①授業で学んだこと ②合同授業をしてみて成長できたこと
1		活動シート	①人によってそもそもどちらでもないとかで自分にはない面から絵を鑑賞することができた。食べかけの物が多いことや箸やスプーンなどが多く、倒れて置かれていることで、食べている最中ということが伝わる。②より多い人数でやることで自分にはない考え方を聞けた。 ③他の学校の人と意見交換して、自分では思いつかなかった考えが知れたと思います。④自分の意見を言うのがすごく苦手なんですけど、自分の意見が言えたので、もっと自分の意見を大切にしたいなと思いました。 今日授業を受けて、友達と話し合いをして「なるほど！」「そういう考えもできるのか」というところが一枚の絵がたくさん出てきて面白かった。授業を受けて、色んな意見を出し合ったり、話し合ったりする力をつけることができた。 普段クラスで観賞しているときには出てこないような考えがたくさん出てきて、新鮮な感じがたし、気付きがたくさんあって面白かった。そんな考えもあるのかと思って、自分の考えをさらに広げたり、膨らませたりできた。

取組のねらい・実施にあたり工夫した点 等

【取り組みのねらい】

- ・小規模校で学ぶ生徒たちが、離れた地域に住む生徒とともに学ぶことで、より多様な価値に触れ、見方や感じ方を広げること。
- ・他校の教師と連携して多くの生徒の学習を支える環境づくりを模索すること。

【工夫した点】

- ・Web会議システムを活用し、両校の生徒が対話をしながら学習を進められるようにする。
- ・ひとり一人の発言の機会が多くなるよう、グループ活動の時間を十分に確保できるようにする。
- ・オンラインホワイトボードツールやスプレッドシートを活用し、互いの気づきや他のグループの様子を参照できるようにする。